

Visamo Kids Foundation Japanese Website Text

<1. ホーム>

(1) ヴィサモ・キッズ

教育環境の整備と強力なサポートを通じて子供たちの社会的地位の向上を図ります。

ヴィサモ・キッズ財団はインドのグジャラート州・アーメダバードで活動する NGO。恵まれない子供たちに衣・食・住を含めた包括的な教育環境を提供し、初等教育から中等教育(日本の小学校一年生から高校三年生相当)までの彼らの生活を全面的にサポートします。現在、ヴィサモ・キッズでは 60 名の子供たちが生活しています。

(2) はじめに

・ ヴィサモ・キッズが活動する理由

毎日を生き抜くために必要な衣食住さえ、十分に確保できない。貧しい生活を強いられる家庭では、子供たちの教育が優先されることはありません。そして、そこで生きる子供たちは夢や目標を育むことさえできません。彼らの目標や願望は、日々の生活につきまとう「貧困」という問題にあっけなく埋もれてしまうからです。

「恵まれない子供たちにチャンス」「社会や既存の制度に変化を」こういった声を私たちはよく耳にします。しかし、そのような問題意識を持ちながら実際に努力する人々は、残念ながらあまり多くはいません。

ヴィサモ・キッズは恵まれない子供たちにチャンスを与えるため、夢を育み叶える力を与えるため、そして社会に確かな変化をもたらすため、日々活動しています。

(3) 今、なされるべきこととは

・ インドのいま

インドはいま急激な経済発展を遂げており、人々の暮らしはより豊かになりつつあります。しかし依然として貧しい暮らしを強いられる人々も多く、経済的事情から満足な教育が受けられない子供たちが多いのも事実です。

貧困という罠から脱出させるため、そして社会的地位を向上させるため、子供たちには十分な教育が施されることが必要です。教育が行われなければ子供たちの社会進出が望めないばかりか、彼らの家族やコミュニティ全体の発展も阻まれてしまうからです。

・ 十分な教育とは

「教育支援」と聞いて、何を思い浮かべるでしょうか？よく知られているのは、学校が無い場所に学校を建てたり、本や文房具などの教材を提供したりする活動です。校舎や教材は子供たちが勉強する上で必要不可欠ですから、これらの活動はいずれも大変重要です。

しかし「十分な教育」とは、子供たちを学校へ入れ、教材を与えるだけで達成されるものでは必ずしもありません。インドには公立学校が数多くありますし、義務教育制度も存在します。

しかし、インドの貧しい家庭では親が教育に対して無関心であるため、子供を学校に通わせるよりも家計を支える一員として働かせることを選ぶことがあります。とりわけ農村地域では、「女子児童への教育は不要」という考え方も根強く存在します。また、学校へ通っていても教育環境が整備されていないために、満足な教育を受けることができない場合もあります。

つまり学ぶ場所や環境があっても、それだけでは子供たちに十分な教育の機会が与えられない場合があるのです。

- ・ しつけや学問教育を含めた包括的なサポートが必要です

子供たちが社会に出て生きていくためには、学問的な知識だけでは不十分です。基本的なマナーなどについての「しつけ」を受ける必要があります。日本の感覚では、こういった「しつけ」は家庭での教育や他者との交流の中で自然に培っていくもの、と考えがちです。しかしインドでは、都市と農村、豊かな家庭と貧しい家庭の間には、生活様式や礼儀作法において「文化的差異」とも言うべき大きな違いがあります。したがって、経済的に恵まれない子供たちの社会進出を支援するためには、こういった「しつけ」のレベルでも変化をもたらす必要があるのです。

つまり、貧しい子供たちを貧困の罠から脱出させ社会的地位を向上させるためには、しつけや学問教育を含めた包括的な学習環境の整備が必要です。ヴィサモ・キッズは全面的なサポート体制の下子供たちに十分な教育の機会を与え、彼らの社会的地位を確実に向上させるべく様々な活動を行っています。

(4) ヴィサモ・キッズの理念と使命

- ・ 理念

ヴィサモ・キッズは、恵まれない子供たちの生活と思考に教育が根本的な変化をもたらすという理念の下、活動しています。そして、そのような変化がひいては彼らの家族や地域コミュニティ全体に波及し、現状を改善すると考えます。

- ・ ヴィサモ・キッズが望むもの

わたしたちは、全ての子供たちに平等な地位と機会が与えられ、彼らが自信を持って生きられるようになることを望みます。そして、子供たち一人ひとりが夢を叶え、自分で選んだ人生を幸せに送ることができるような明日を望みます。

- ・ ヴィサモ・キッズの使命

ヴィサモ・キッズは教育環境の整備と子供たちに対する包括的なサポートを通じ、子供たちの社会的地位の向上を図ります。

<ヴィサモ・キッズについて>

(1) 団体概要

- ・ 団体名：ヴィサモ・キッズ財団(Visamo Kids Foundation)
- ・ 活動国：インド
- ・ 所在地：Opp. Inductotherm, Bopal, Ahmedabad
Gujarat, India – 380 058
- ・ 設立年月：2002年8月
- ・ 代表者：理事長 Manjura Pooja Shroff
プロジェクト・コーディネーター Bina Desai
- ・ FCRA*番号：041910363
- ・ 目的：教育環境の整備と子供たちに対する全面的なサポートを通じ、経済的に恵まれない子供たちの社会的地位の向上を図る
- ・ 事業内容：子供たちを当財団施設に受け入れ、第12学年(日本の高校三年生相当)を修了するまで学習環境を提供し、衣食住や学費を含めた包括的な支援を行う
- ・ 事業活動収入*〔2007年度〕：2,763,526 ルピー
 - ※ FCRA(Foreign Contribution Regulation Act：外国貢献規制法)
…インド国内の団体が外国から資金協力を得る場合、この法に基づき団体登録することが必要。詳しくはインド内務省のサイトをご覧ください。(内務省のサイトでは州別で登録団体を検索することも可能。)
 - ※ 詳しい年次報告については、Visamo Kids Foundation 英語版ウェブサイトの Annual Report をご覧ください。

(2) これまでの歩み

- ・ 設立にあたって
ヴィサモ・キッズは2002年に設立されました。創設者はアーメダバードを中心に活躍する教育振興財団・カロクス財団(Calorx Foundation)の会長、マンジュラ・プージャ・シュロフ氏。同氏はかねてから社会的・経済的に恵まれない子供たちを支援したいと考えていました。当財団はそのようなシュロフ氏の熱意の下、恵まれない子供たちに住まいと夢を育むための包括的な環境を提供するために創設されました。また、当財団施設の設立にあたっては K.R.シュロフ財団(K.R. Shroff Foundation)のサポートを受け、約100名の児童のための支援体制を整備することが可能になりました。

・7年の歩み

ヴィサモ・キッズの試みは2002年8月、アームダバードのパンチュバティというところで、22人の子供たちと共にスタートしました。そこにやってきたのは教育を受けることはもちろん、まともな食事さえとるができないほど貧しい家庭に暮らす子供たちばかりでした。

発足当初から、ヴィサモ・キッズの活動を一目見ようと多くの人々が当団体の施設を訪れました。しかし最初の1ヶ月間は試行錯誤の連続で、施設のスタッフは泣いたりはしゃいだりする子供たちをなだめるのに精一杯でした。その後、残念ながら4人の子供たちが施設を去り、18人の子供たちが残りました。彼らは今もヴィサモ・キッズに不可欠な存在として施設に残り、勉強に励んでいます。

地域の協力なしには、ヴィサモ・キッズは今日のような形で活動することはできませんでした。多くの人々が施設に足を運び子供たちと時間を共にし、また多くの人々がスポンサーとして子供たちの教育支援に協力して下さいました。特に、提携校からは多大なサポートを受けました。ヴィサモ・キッズが掲げる「教育を通じた子供たちの社会的地位の向上」という目的は、提携校の支援抜きに語ることはできなかったでしょう。

発足から七年。多くの挑戦を経て、ヴィサモ・キッズで生活する子供たちの数は提携NGO・ボランティア・施設スタッフの協力の下、徐々に増えていきました。子供たちの数が増えるにつれてより大きな施設が必要になったため、2005年にはK.R.シュロフ財団の寄付の下、最大で100人の子供たちが生活可能な施設が作られました。同年1月に子供たちは新施設に移り、新たな生活をはじめました。

施設で暮らす子供たちの数は毎年順調に増えており、2009年現在、ヴィサモ・キッズでは60人の子供たちが家族のように仲むつまじく暮らしています。

<ヴィサモ・キッズの活動>

(1) わたしたちの活動

ヴィサモ・キッズでは、才能にあふれながらも機会に恵まれない子供たちを受け入れ、彼らの能力を発揮するチャンスを提供しています。包括的な教育支援を受けるため、子供たちは第二の家となる当団体の施設で、第12学年(日本の高校三年生に相当)を修了するまで生活を共にします。またヴィサモ・キッズでは、子供たちの可能性を引き出し様々

な側面での成長を促すため、多様な活動を行っています。

(2) 子供たちの受入れ手続き

受入れまでの流れ

- (1) 当財団と提携関係にあるNGOが、グジャラート州各地で受入れ対象となる子供たちをリストアップします。
- (2) 子供たちの能力や適性、傾向などを把握するため、テストを実施します。
- (3) 子供たちの健康診断が行われます。
- (4) 受入対象となる子供の親、リストアップ時に関与した提携NGO、ヴィサモ・キッズの三者で面談が行われます。そこで子供の親の同意が得られれば、ヴィサモ・キッズのへの受入れが正式に決まります。
- (5) 受入れが決定した子供たちは12月までに当団体施設に移り、施設での生活を始めます。受入れ直後にはオリエンテーションが実施され、施設での生活や就学に必要な基本的なしつけ・教育が行われます。
- (6) 当施設で就学前教育が十分に行われた後、子供たちは当財団の提携校に入学・編入します。
- (7) 子供たちは自らの夢や目標を達成するため、当財団による包括的なサポートを受けながら、学問に励みます。

(3) 全面的な発展のために

子供たちの成長をさまざまな側面から支えるため、またそのための専門的なアプローチを確保するため、ヴィサモ・キッズでは補完的な活動を数多く実施しています。子供たちの発育に直接関係するものがほとんどですが、ボランティア活動やスタッフの育成、地域交流に関するプログラムも用意されています。

◎子供たちの成長のための活動

- ・施設スタッフ、教師、ボランティア、子供たちの学校の同級生、提携校などの協力の下で子供たちを見守る環境をつくり、また子供たちの成長を総合的に評価します。
- ・施設内でのカウンセリングを実施します。
- ・子供たちに趣味を持つことの大切さを教えます。
- ・施設内の学習室で、補習授業を行います。
- ・年に一度、施設内の成績優秀者を表彰します。
- ・地域との交流の場を設けます〔詳しくは地域交流で〕。
- ・日記をつけさせる等、自分自身を省みることができるような機会を提供します。
- ・家族と接する機会を設けます〔詳しくは子供たちと家族で〕。

- ・心身の健康のため、スポーツ・音楽・ダンスなどの課外活動を奨励します。
- ・職業訓練を実施します。
- ・医療を提供します。
- ・将来のビジョンを定めるにあたって目標となる人物を見つけられるよう、様々な活動を行います。
- ・子供たち一人ひとりのための預金口座を開設します。
- ・一人ひとりの安全・安心のため、すべての子供たちが損害保険と医療保険に加入します。

◎施設スタッフ育成のための活動

- ・新規スタッフの採用を行い、採用後はオリエンテーションを行います。
- ・スタッフへの指導を適宜行います。
- ・スタッフに対する定期的なフィードバックと評価を行います。

◎ボランティア活動

- ・ボランティア活動の管理・運営を行います。
- ・当財団の活動への意識向上を図るイベントの運営や、寄附を募る活動などを行うにあたり、ボランティアの募集を行います。
- ・その他、日頃のボランティア活動に感謝するイベントなども含め、ボランティア活動に関連する様々な活動を行います。

(4) 地域交流(Community Integration)

地域交流は子供たちの教育のためだけでなく、子供たちが地域に馴染み、溶け込むことを促進するためにも実施されます。子供たちが社会に出たときに自信を持って自己表現できるよう、ヴィサモ・キッズでは特別なプログラムを組んでいます。

- ・友達との交流プログラム
毎週夕方、ヴィサモ・キッズで生活する 2 人の子供たちがそれぞれのクラスメイトとその両親を当団体施設に招き、時間をともにします。
- ・チャリティーディナー
地域コミュニティ全体に私たちの目的や活動を認知してもらうため行われるイベントです。地域の人々に施設に来てもらい、子供たちと一緒に過ごしてもらったり、ヴィサモ・キッズの設備を見学してもらったりします。チャリティーディナーは金曜日の夜に開催され、毎回 10 人以上の参加者が集います。子供たちは参加者とともに遊び、経験を分かちあうことで多くを学びます。また子供たちが地域に馴染む上でも、この

イベントは重要な役割を果たします。

- ・地域の家庭との交流プログラム

都市での生活様式やそこでの行動規範を知ることが子供たちにとって大変重要なことです。また、子供たちに生活文化の違いを理解する機会を与え、社会的マナーを身につけさせることも必要です。このプログラムの中では地域の家庭の協力の下、ヴィサモ・キッズで暮らす子供を一人または数人家に招待してもらい、一日を過ごしてもらいます。子供たちはこのプログラムを通じて人との付き合い方を学び、また自信をもって他者と接することができるようになります。

(5) 子供たちと家族

私たちは、最終的には子供たちに地元に戻ってもらい、家族や地域全体の発展を助ける存在になってもらいたいと考えています。そのためにも、子供たちとその家族の繋がりを絶やさないようにすることが大切です。ヴィサモ・キッズでは、子供たちの親に施設にいる子供たちに電話をかけることを強く勧めていますし、また子供たちにも定期的に親に手紙を出すよう働きかけています。

- ・月1回の親の施設訪問

毎月第四日曜日になると子供たちの両親が施設に訪れ、親子水入らずの一時を過ごします。親子のふれあいの時間を設けることもヴィサモ・キッズの大きな使命ですが、私たちはまた、親の意識改革や親への知識・情報の伝達といった側面でも重要な役割を担っていると考えています。そこで、子供たちの親に彼らの子供に実際に生じている「変化」に気付いてもらうためのプログラムを実施しています。ここでは、両親に子供たちの成長をじかに感じとってもらい、実際に変化が生じているという認識を親子で共有してもらうことが大きなねらいです。また様々なトピック(健康や衛生管理、食と栄養、性感染症やエイズについての意識向上、家族計画、環境問題、子供の人格形成、リプロダクティブ・ヘルス、性教育、ジェンダー開発、伝統的医療と近代的医療など)についてのディスカッションを行うことで、これらの問題に対する親の意識改善を図っています。また、子供たちの家庭を助けるだけでなく、その家族が暮らす地域コミュニティの発展にもつなげるため、子供たちの親に情報を持ち帰り、地元コミュニティ全体で共有してもらうことも奨励しています。

(6)他者との連携(Our Partners)

- ・提携 NGO

ヴィサモ・キッズ発足以来、当団体と提携関係にある NGO は、当団体の児童受入れ手続きに大きく貢献しています。現在、ヴィサモ・キッズは提携 NGO10 団体と

ともに活動しています。これらの NGO はグジャラート州各地で草の根レベルで活動し、児童の認定作業を行います。また、受入対象となる児童の親とカウンセリングを実施し、教育の必要性・重要性について説明する役割も担っています。

- ・提携校

ヴィサモ・キッズは地域の 12 校の学校と連携しながら活動しています。いずれも、地域では提供する教育の質が高いことで知られる私立の英語学校です。これらの提携校は、子供たちを生徒として受け入れ、将来子どもたちが社会的地位を獲得し自立するため、必要な基盤を提供してくれています。

- ・提携医療機関

万全な体制で子供たちの健康管理を行うため、ヴィサモ・キッズは地域の多くの医療機関と連携し、子供たちに必要な医療を提供しています。

…詳しくは [Visamo Kids Foundation 英語版ウェブサイト](#)で

<ヴィサモ・キッズの子供たち>

(1)子供たちの生活

- ・とある一日

朝、5時半。起床のベルとともに子供たちはベッドから起き上がり、続々と身支度を始めます。その後、眠たい目をこすりつつ1階にあるダイニングホールへ、朝ごはんを食べます。

始業時間や終業時間は学校によって様々。七時半から始まりお昼頃に終わる学校もあれば、九時に始まり三時に終わる学校も。お昼を学校で過ごす子供たちは朝ごはんを食べたあと、キッチンに行ってお弁当をもらいます。

スクールバスで学校へ。行ってらっしゃい！

午後1時。終業時間の早い子供たちはすでに帰宅しており、施設内で昼ごはんを一緒に食べます。昼ご飯にはフルーツがついています。

午後3時頃になると、子供たちが続々と学校から帰ってきます。帰ってきた後行くのは、”Study Yard”と呼ばれる学習室。ここでは専属チューターが子供たちの勉強をサポートします。

午後5時半頃、ダンスレッスン、歌のレッスン、スポーツクラブなど、子供たちはそれぞれの課外活動へ出かけます。

午後7時、みんな揃ってダイニングホールに集合。神様へのお祈りと、今日一日

の反省会それが終わったら、待ちに待った晩ご飯！

午後8時、子供たちはそれぞれの部屋に戻ります。今日会った出来事を話したり、宿題に取り組んだり。特に上級生になると学習量が増えるため、夜遅くまで課題に励みます。

午後10時半、就寝。おやすみなさい。

- 学習室での風景

ダイニングホールの隣に、テーブルと椅子、そしてたくさんの本がずらりと並んだ部屋があります。ここが、”Study Yard”と呼ばれる学習室。毎日学校から帰ってきた後、子供たちは学習室に行き、その日の復習や宿題を行います。分からないところはチューターに質問します。

- 課外活動

毎日夕方になると、子供たちはスポーツクラブに行くために、施設のバスに揺られながら近くの提携校・Delhi Public School へ向かいます。ここではテニス、サッカー、空手、バスケットボール、スケートなど、様々なスポーツに取り組むことが出来ます。子供たちにとって、とても楽しみな一時です。

一方、女の子たち数人はバスには乗らず、徒歩で近くのダンス教室へ。難しいステップと手の動きを組み合わせ、先生のお手本に習って踊ります。踊るみんなの顔つきは真剣そのもの。

また、毎週月曜日には施設に歌の先生が来て、ボーカルレッスンが開かれます。先生が弾く鍵盤のメロディに合わせて、みんなで歌います。

その他、芸術教室や本読み教室など様々な課外活動が行われており、子供たちは色々な経験をすることができます。

- 誕生日パーティー

毎月第3日曜日には、その月の誕生日を祝うパーティーが開かれます。テーブルの上には、ボランティアが用意してくれた大きな誕生日ケーキ。大好物を目の前にして、みんなの目が輝いています。誕生日パーティーを盛り上げるため、色々なゲームやイベントが行われます。

- 遠足

毎月1回、施設の子供たちは遠足に出かけます。これも、子供たちにとっては楽しみなイベントのひとつ。

- 祝祭日のお祝い

ヴィサモ・キッズでは色々な祝祭日のお祝いをします。祝祭日の行事を通して、子供たちにインドの歴史や文化に触れてもらいます。

(2)もっと詳しく知りたい方は

子供たち一人ひとりについてもっと詳しく知りたい方は、英語版のウェブサイトへ

<寄付する(Donate Us)>

(1) 寄付について(Donation Option)

ヴィサモ・キッズでは、皆様からの寄付を広く受付けています。また、当財団施設で生活する特定の子供のスポンサーになることもできます。あなたも一緒に子供たちをサポートしませんか？

◎寄付の形式

個人・団体からを問わず、また大小を問わず受け付けております。物資での寄付も受け付けております。

◎スポンサーになる

- ・ 特定の子供の完全なスポンサーになる…子供一人につき 45,000 ルピー/年
- ・ 特定の子供の部分的スポンサーになる…子供一人につき 30,000 ルピー/年
- ・ 教育費用の支援…子供一人につき 15,000 ルピー/年
- ・ 食費の支援…子供一人につき 15,000 ルピー/年
- ・ 下宿費用の支援…子供一人につき 7,000 ルピー/年
- ・ 文房具費用の支援…子供一人につき 5000 ルピー/年
- ・ 全ての子供たちの食費の支援…一食につき 3000 ルピー

※2009年11月現在 1ルピー=1.92円

為替レートは日々変動します。

具体的なレートについては各自でご確認下さい

(2) 日本から寄付をする

- ・ 口座振り込み
- ・ 物資のご寄付

<Q&A (Questions & Answers)>

Q1 なぜ親元から離れて施設で暮らす必要があるのですか。

A1. 子供たちの社会的地位を確実に向上させるため、包括的な環境を用意する必要

があるからです。経済的・社会的に恵まれない子供たちに質の高い教育を提供し社会的地位を真に向上させるためには、教育環境の整備はもちろんのこと、生活習慣や日々のしつけに至るまでの包括的な支援体制が必要です。とはいえ、家族とともに過ごす時間は子供たちにとってはかけがえのないもの。ヴィサモ・キッズでは、毎月1回子供たちの親が施設に訪れる機会が設けられています。また子供たちの親には施設にいる子供たちに電話をかけることを勧めていますし、また子供たちも親に手紙を書く機会が与えられています。また、長期休暇の際には子供たちは親元に帰省します。

Q2.第12学年を卒業後、子供たちはどうなりますか。

A2.子供たちはそれぞれの志望する進路に応じ、大学や専門学校に進学したり就職したりします。ヴィサモ・キッズでは卒業生に経済的支援を行うことは現在予定していません。しかし、子供たちが施設を出て新たな生活をスタートするにあたり、奨学金制度へのアクセス支援、職業訓練支援、精神面でのサポートなど、様々な側面からの支援を行います。

Q3.なぜヴィサモ・キッズの子供たちは私立の英語学校に通うのですか。公立学校ではだめなのですか。

A3. まず、ヴィサモ・キッズに生活する全ての子供たちの教育の質を確保するためです。インドの公立学校の中にはすばらしい環境を整えた学校もありますが、残念ながら教育環境の質にはばらつきがあります。したがって、子供たちが学力や教養を確実に身につけ、きめ細やかな支援を確実に得るためには、現状では私立の学校に通学することが必要なのです。

また、私立の英語学校へ通うことでヴィサモ・キッズの子供たちは他の様々な境遇の子供たちと同等の機会が与えられます。そういった意味でもこのような教育機関に子供たちを通わせることは重要です。

さらに、グローバル化が進む中で世界各地の人々を結びつける「英語」の重要性も非常に高まってきています。英語はインドの準公用語とされていますが、全ての人々が話せる訳ではありません。今日ではインドの公立学校でも英語が必修科目化されており、最近ではより低学年からの英語教育もなされるようになりました。しかし、より確かな英語力を子供たちに身につけさせるためにも、ヴィサモ・キッズでは子供たちを英語学校に通わせています。もちろん、子供たちは公用語であるヒンドゥー語やグジャラート語の読み書きも学習します。

Q4.日本のボランティアは受け付けていますか。

A4. 私たちはヴィサモ・キッズの活動を広め、ヴィサモ・キッズへの寄付を募るべ

く日本でボランティアとして参加して下さる方々を募集しています。また、実際にインドのヴィサモ・キッズでボランティア活動をしたいという方は、当団体までお問い合わせ下さい。

<お問い合わせ>

- Visamo Kids Foundation(英語のみ)
Opp. Inductotherm, Bopal, Ahmedabad
Gujarat, India 380-058
Tel. : +91 97243-15352, 02717-237651
E-mail : info@visamokids.org

- 日本語でのお問い合わせ

E-mail :

担当 山村優奈

※お問い合わせの内容によってはご返答に数日要することがございます。
ご了承下さい。

<リンク>

- **Visamo Kids Foundation (英語版ウェブサイト)**
- **Calorx Foundation**